

報告4

鞠智城と菊池川流域の古墳・古代遺跡

報告者紹介

亀田 学（かめだ まなぶ）

熊本大学大学院文学研究科修士課程修了。熊本県教育庁文化課を経て、現在熊本県立装飾古墳館分館「歴史公園鞠智城・温故創生館」勤務。

鞠智城と菊池川流域の古墳・古代遺跡

歴史公園鞠智城・温故創生館 亀田学

はじめに

この度私に与えられましたテーマは、菊池川流域の古墳時代と古代遺跡というものです。対象とする地域は有明海を流域にする菊池川下流域、それから中流域、それから上流域。このあたりを中流域と設定する人もいるんですけれども、便宜的に上流域と考えさせていただきたいと思います。

一 菊池川流域の古墳

まず、古墳時代前期には、中流域に、竪穴式石室を持つ竜王山古墳が現れます(図1)(図2)。その後有明海流域に近いところに、舟形石棺を擁します。また壺形埴輪を持つ首長墓が造営されます。中期になると舟形石棺を主体とする古墳が、菊池川下流域・中流域に顕著に分布します。これは、菊池川流域の舟形石棺の形式を表したものです。高木恭二氏が設定された北肥後型というのは、屋根形、棺蓋が家形をしたものです。

舟形石棺の分布は中下流域に分布の中心があります。菊池郡衙、郡衙推定の上流域の深川古墳まで墳が見られます。舟形石棺が採用されます(図3)。菊池川流域の古式な舟形石棺をのぞくと、上流域西部に前方後円

北肥後型、先ほど屋根型をした舟形石棺の分布なんですけど、菊池川流域に顕著なんですけど、筑後川流域にも顕著に分布していることが分かり、密接に関係があったことが分かります。

肥後地域では、横穴式石室の玄室の奥に、



開かれた棺の石屋形というものが据えられます(図5)。石屋形、家形の棺蓋を持つ2つの

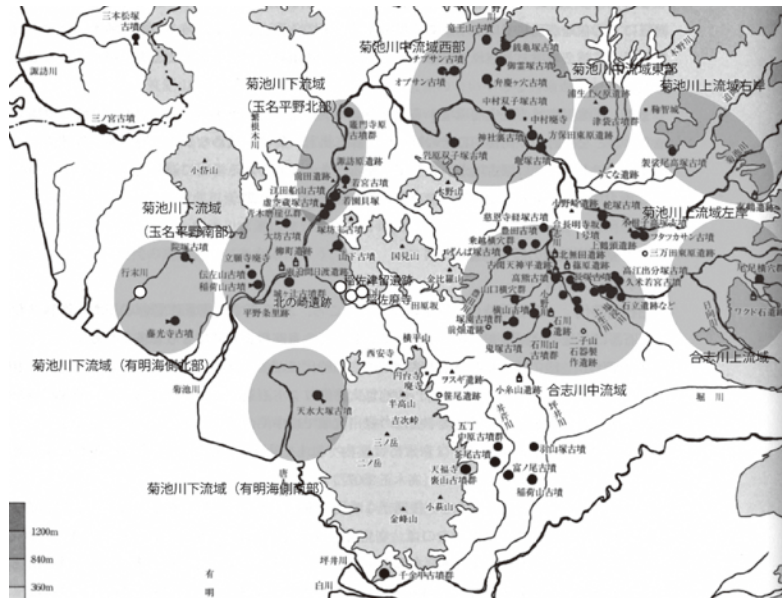


図1 菊池川流域を中心とした遺跡分布図
(国立歴史民俗博物館研究報告第173集第23図2012を改変)

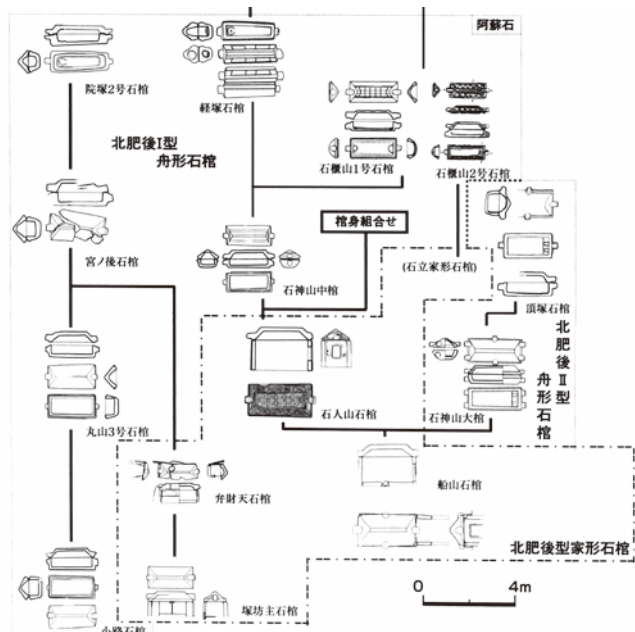


図3 菊池川流域の石棺の系譜（高木恭二）

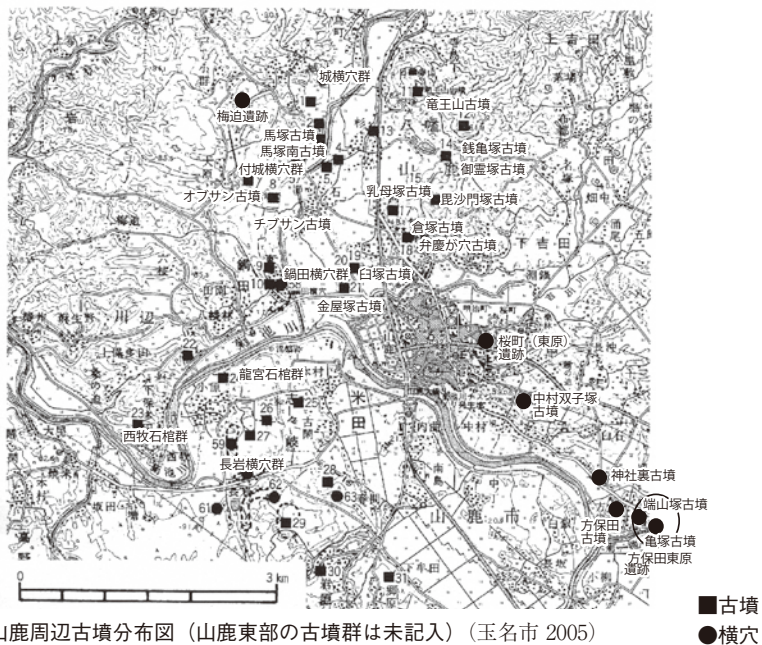


図3-1 山鹿周辺古墳分布図（山鹿東部の古墳群は未記入）（玉名市 2005）

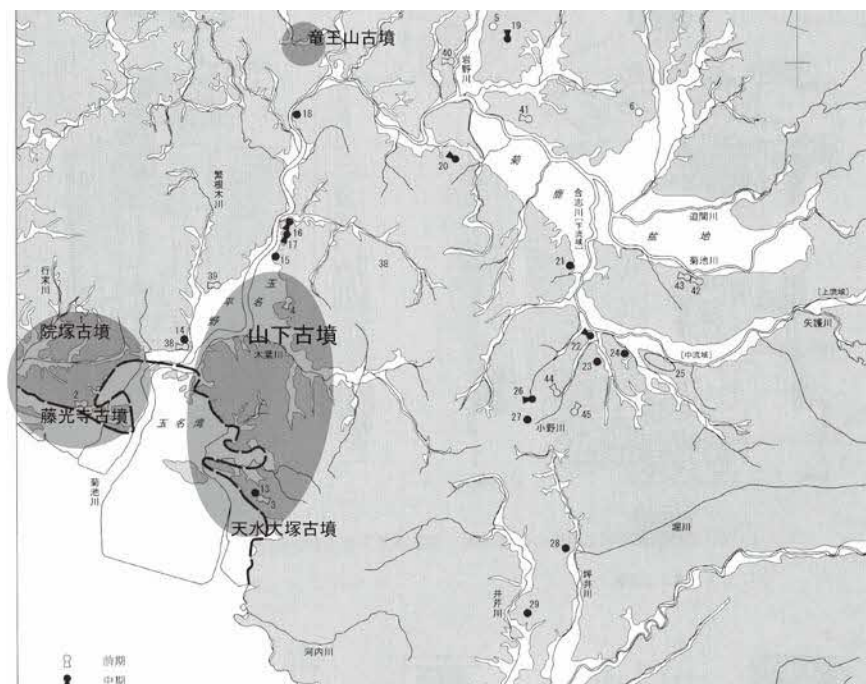


図2 前期古墳の分布

類型に分かれ、平天井A類、家形B類に分けると、B類の分布が菊池川流域と宇土半島の基部に顕著であることは、在地勢力が力強く結びついている可能性があり、筑後川地方の有力な古墳にも採用されています。菊池川上流域にも袈裟尾高塚古墳などがあるんですけども、石屋形です。石屋形が平天井であることは、在地勢力の部分と接点である考えられます（図5）。

二 菊池川流域の古墳時代の集落

古墳時代の有力な集落は、下流域では柳町遺跡や古代に鉄生産遺跡を背後に持つ山田松尾平遺跡など。それから、中期では方保田東原遺跡周辺、御宇田台地に

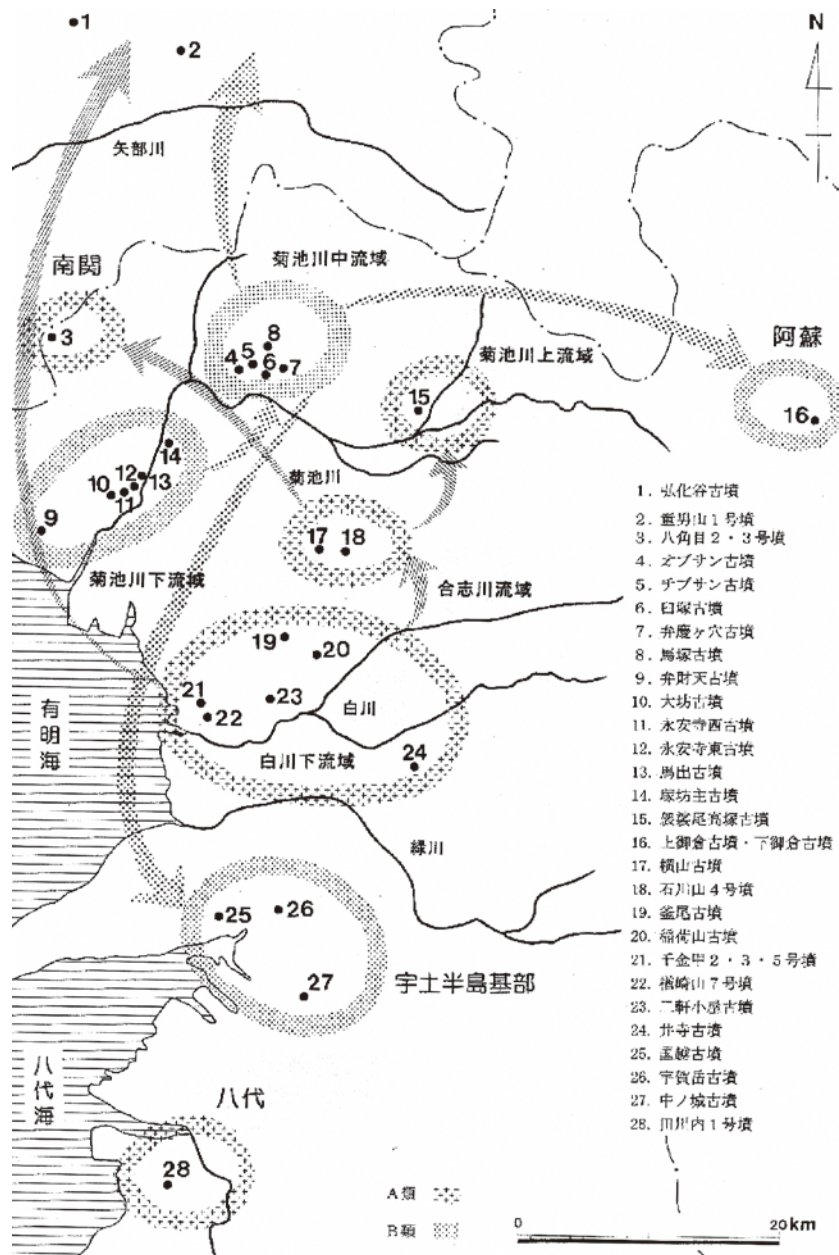


図5 肥後 主要な石屋形を有する古墳分布図 (宇野慎敏 2010)

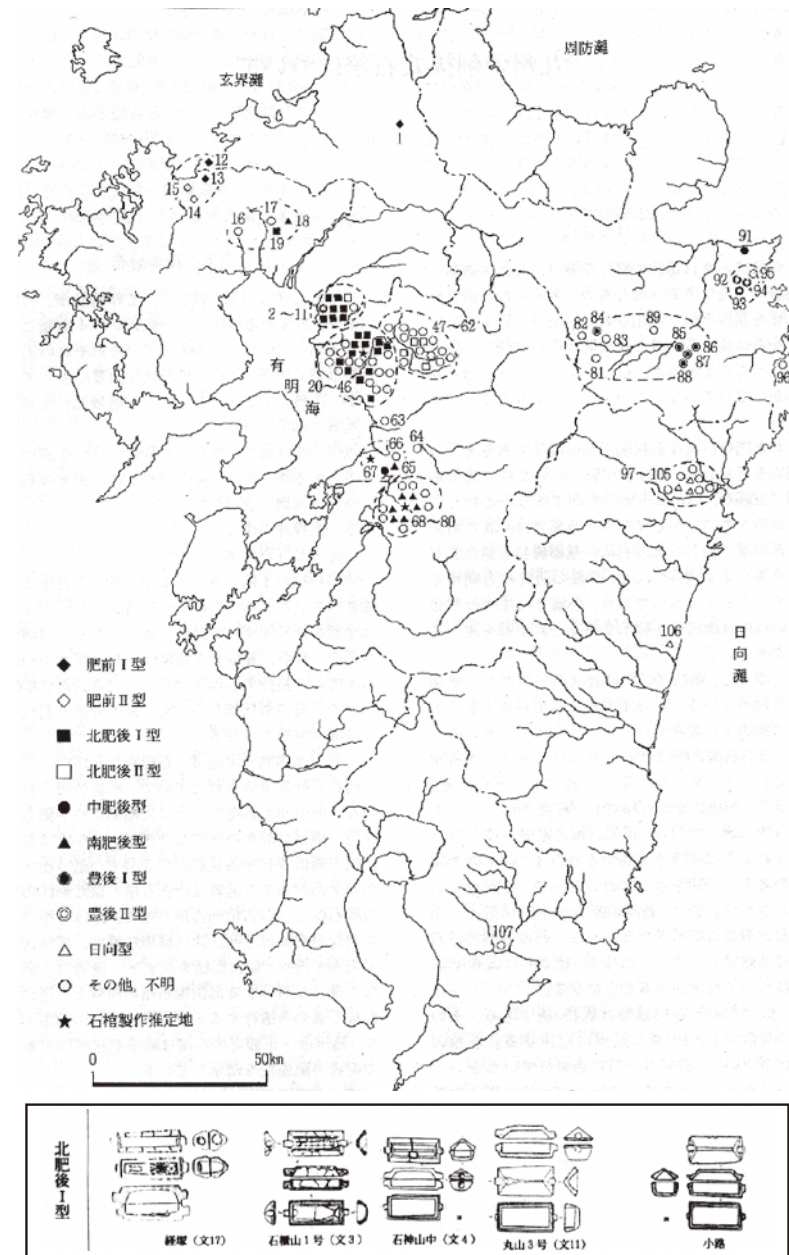
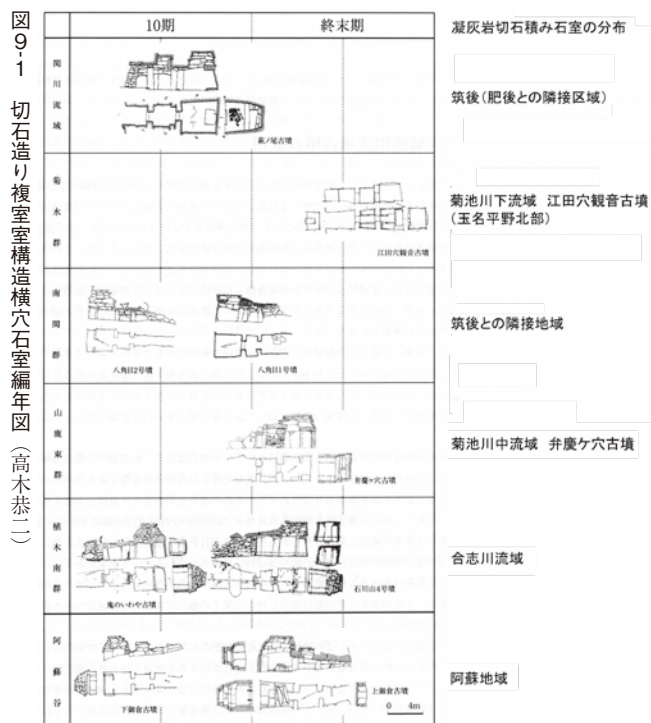


図4 九州の舟形石棺分布図 (高木恭二 1994 古代学協会)

衙や立願寺廃寺を中心に、七世紀以降、古代を通じて見られます。

全体的には、八世紀後半以降、集落の増加は顕著ですが、丁寧に見ると七世紀代の遺物も出土しています。中下流域の、古墳時代以来の集落が古くから存在し、合志川流域は合志郡から山本郡が分離



時期		300	400	500	600	建物の特徴	出土遺物	備考
論智城 編年		前期	中期	後期	終末期			
上菊 流池 域川	鞠智城跡					堅穴	須恵器模倣杯	
	樋口遺跡						須恵器模倣杯	
合志川 流域	うてな遺跡					溝		
	伊坂上ノ原遺跡					土坑		
	石川遺跡						鉄鍬、やりがんな、製埴土器、土玉、ミニチュア、須恵器模倣杯	
	北無田遺跡					堅穴		
	古閑天神原遺跡					堅穴、溝	定型石臼(朱)	
	篠原遺跡					堅穴	須恵器模倣杯	
	平町遺跡					堅穴	甍韓式土器	
	藤巻遺跡					堅穴		
菊池川 中流域	大久保遺跡					堅穴		
	方保田東原遺跡							
	藤井前田遺跡					溝、土坑、堅穴		
	津袋大塚遺跡					堅穴		
	御手田成竹遺跡					堅穴		
	下高橋遺跡					堅穴		
	御手田遺跡群(西久保遺跡)							
	菊池川 下流域	初野・岡迫間日渡・玉名平野桑里跡					生産遺跡・堅穴	土星模造品、小型壺
塚原遺跡						堅穴		
小田宮の前遺跡						土坑、祭祀遺構	小型ミニチュア	
蓮華遺跡						堅穴	須恵器模倣杯なし	
山田松尾平遺跡						ミニチュア、玉、小型壺		
築地館跡						堅穴		
稲佐津留遺跡						堅穴	山陰系甍、小型仿製鍬(内行花文鍬)・烏文鍬	稲佐廃寺に近接
北の崎遺跡						堅穴(古式龍付)	小型丸底蓋	稲佐廃寺に近接

表2 菊池川流域古墳時代集落消長表

遺跡が分布します（表2）。中期になると、合志川流域の平町遺跡で早くから竈が採用されるなど、渡来系の要素と畿内系政権の関与する武器、武具等を持つ古墳の周辺に集落が営まれます。

古墳時代の鞠智城周辺には切石積みみの石室は存在しませんが、後期の横穴式石室、横穴群が多数存在します（図9）。このように、在地の集落は鞠智城を囲むように存在し、鞠智城には六世紀後半から七世紀にはすでに集落が見つかっている状況です。在地の有力な首長は存在しませんが、在地の勢力をけん制するためにヤマト政権が勢力を置くには適した地域であったと考えられます。

表4は古代の官衙かんが関連遺跡やその他の集落の消長をまとめたものです。鉄の生産は流域の特定の地域に存在し、墨書土器の出土している遺跡はかなり多いことが分かります。下流域の玉名平野には玉名郡

時期	鞠智城 欄年	700					800					900					建物の特徴	出土遺物	備考
		I 期	II 期	III 期	IV	V													
菊池川上流域	菊池郡	西寺遺跡															△		
		十連寺															複弁蓮華文瓦 △		
		うてな遺跡															5間以上の建物、東西南	板ラグ、鉄、砥石 ▲	
		岡田遺跡															堅穴		
		深川遺跡															堅穴、掘立		
		赤星覆土・水堀遺跡															△	●	
		赤星石道・灰塚遺跡															△	●	
		竹ノ上原遺跡															緑釉陶器、耳皿 ●		
		万太郎遺跡															製塩土器		
																	道路、堅穴、掘立	◎、転用硯 ●	「木(水・米)多」「出？ 殿？」
合志川流域	合志郡	岩瀬・木柑子遺跡															●		「主人」「吉」「福」「十」 「講」「六」「文福」 「上鳥(鳥)」「少」 「菊入」「布」
		森北院ノ馬場・迫畑															◎ ●		「力」「木？水？」 「豊？」「福？」
		小迫遺跡															◎ ●		
		伊坂上原遺跡															●	● △	
		伊坂東原遺跡															●	●	
		前畑遺跡															●		
		栄ノ平遺跡																	
		ワクド石遺跡															5間以上の建物 堅穴、掘立、溝		
		石川遺跡															堅穴		
		八反畑															堅穴	刻書土器 ●	「十」「公」「坂？」
		八反田遺跡															堅穴	刀子 ●	「菊」「九」
		迫原遺跡																	
		篠原遺跡															堅穴、掘立 5間以上	●	「原」
		大久保遺跡															5間以上	鉄滓 ● △	「正」「主」「前」
		小迫遺跡																	
		上鶴沼遺跡															掘立方形配置、堅穴	●	
菊池川中流域	山鹿郡	千條塚遺跡															●		「福」「宅代」「万」「長 原？」「室」 那州窯青磁
		千束遺跡															堅穴、掘立	●	
		田島廃寺															堅穴、掘立？	◎ 緑釉	
		坂口遺跡															△	●	
		南住吉(住吉神社境内)															◎		
		高木原															◎	銅製帯飾金具 □	礎石
		御宇田遺跡															堅穴、5間以上	△ □	石製巡方
		津袋寺村遺跡																蔵青器	
		駄の原遺跡															5間以上、堅穴		「津」「千大」「
		梅迫遺跡															堅穴、	◎	
		広・西屋敷															堅穴、		
		上迫遺跡																	
		方保田東原遺跡															堅穴、土坑	◎	
		凡導寺跡															△		横目タタキ瓦
		中村廣寺																炉壁(製鉄) ▲	
		桜町遺跡																鉄片、鉄滓 ▲	
菊池川下流域	玉名郡	柳町															●		
		立願寺廃寺															堅穴、大群、掘立	△	重弧文軒平瓦、単弁 蓮華文軒丸瓦
		玉名郡倉跡															法起寺式		
		小田宮の前遺跡															総柱、井戸、道路		
		立願寺大塚遺跡																	
		浄光寺跡(蓮華遺跡)																	
		山田松尾平遺跡															堅穴、土坑、製鉄炉	△	立願寺系瓦
		稲佐廃寺															法起寺式	△	新羅系9世紀瓦
		北の崎遺跡															堅穴	◎	稲佐廃寺に近接

* 注 略称対照 豊書土器 ● 越州窯青磁 △ 法起寺式 法起寺式伽藍配置 堅穴 → 堅穴建物 掘立 → 掘立柱建物 瓦 △ 銅帯(帯金具) □ 鉄関連 ▲

表 4 菊池川流域古代集落消長表

時期	鞠智城 欄年		300		400		500		600		建物の特徴	出土遺物	備考
			前期	中期	後期	終末期							
合志川流域	上菊 流池 域川	鞠智城跡									堅穴	須恵器模倣杯	
											樋口遺跡	須恵器模倣杯	
											うてな遺跡	溝	
											伊坂上ノ原遺跡	土坑	
		石川遺跡											
												鉄鍬、やりがんな、製塩土 器、土玉、ミニチュア、須恵 器模倣杯	
												堅穴	
												堅穴、溝	定型石臼(朱)
												堅穴	須恵器模倣杯
												堅穴	甕轆式土器
菊池川中流域	方保田東原遺跡	方保田東原遺跡									溝、土坑、堅穴		
		藤井前田遺跡											
		津袋大塚遺跡									堅穴		
		御宇田成竹遺跡									堅穴		
		下高橋遺跡									堅穴		
		御宇田遺跡群(西久保遺跡)									堅穴		
		柳町・西迫間日渡・玉名平野条里跡											
		塚原遺跡									生産遺跡・堅穴、土坑、祭祀遺構	土星模造品、小型壺	
菊池川下流域	小田宮の前遺跡	小田宮の前遺跡									堅穴	小型ミニチュア	
		蓮華遺跡									堅穴	須恵器模倣杯なし	
		山田松尾平遺跡									堅穴	ミニチュア、玉、小型壺	
		築地館跡									堅穴		
		稲佐津留遺跡									堅穴	山陰系甕、小型仿製鏡(内 行花文鏡)・鳥文鏡	稲佐廣寺に近接
		北の崎遺跡									堅穴(古式甕付)	小型丸底壺	稲佐廣寺に近接

表 3 菊池川流域古墳時代集落消長表

した頃の地域の移動が見られることが分かります。古墳時代以来の渡来系の人の増加が見られると考えられます。

三 菊池川流域の古墳文化

ヤマト政権に関わる遺物として、埴輪を取り上げてみたいと思います（図6）。畿内地域の川西編年Ⅴ期併行期、いわゆる古墳時代の後期になるんですけど、特徴的な最下段の突帯の部分に、押し付けたような技法を取る古墳が、菊池川の塚坊主古墳、中流域の金屋塚古墳、チブサン古墳等にも見られ、その分布が筑後地方にも顕著になります。

また、この地域で埴輪に変わるものとして石製表飾があげられます。（図7）筑後の岩戸山古墳が有名ですが、石製表飾を中心に分布していますが、肥後地域でも、北部の菊池川流域と南部の氷川流域を中心に分布しています。筑後地域との関連が見られ、石人は筑後川流域の北部に、器材形の石製表飾は南側に分布するのですが、木柑子フタツカサン古墳ですとか、袈裟尾高塚古墳の石室材構成す

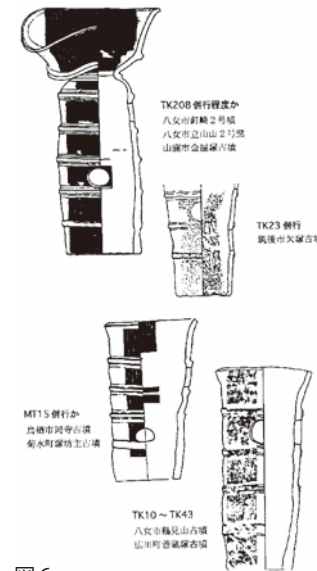


図6 押圧技法を有する円筒埴輪の編年（岸本圭 2000 九州前方墳研究会）

No.	古墳名	所在地	古墳形態	石製表飾	石製表飾の形状	石製表飾の大きさ
1	西原古墳	佐賀市大瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
2	三ツの宮古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
3	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
4	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
5	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
6	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
7	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
8	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
9	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
10	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
11	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾
12	宮田古墳	佐賀市小瀬町	前方後円墳	石製表飾	石製表飾	石製表飾

図7 肥前肥後の石製品分布図（高木恭二 1994 岩戸山歴史資料館）

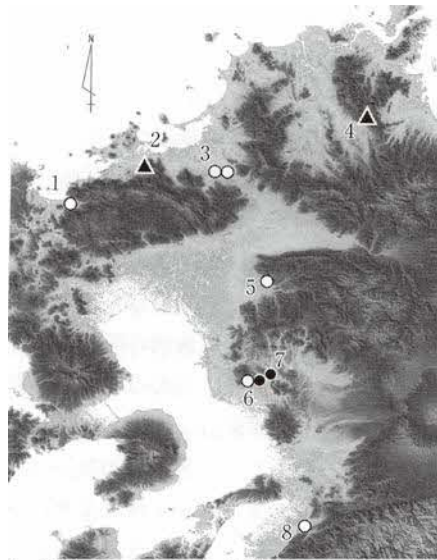


図8 中・北部九州地域における垂飾付耳飾の分布（6世紀前半）（高田貴太 2014）

る靫の石製表飾などが見られ、両地方、肥後の上でも南北の接点にもあたるといふふうに考えられると思います。あと、垂飾付耳飾なんですけれど、五世紀後半から六世紀前半の百済系の耳飾が見られます。江田船山古墳や大坊古墳などに見られ、百済との関係が密接なことが分かります（図8）。

畿内系終末期古墳に類似する凝灰岩の切石積石室の分布

を見ると、菊池川流域には見られないんですけど、筑後、それから阿蘇地域にもありまして、そういった地域の経由点となっているという考えもできます。

四 菊池川流域の古代の集落・官衙関連遺跡・寺跡

菊池川流域の古代官衙関連遺跡として、詳細が比較的判明して中心になるのは、下流域の玉名郡衙、立願寺廃寺を中心とする古代の遺跡群です(図10)。周辺には柳町遺跡が存在し、八世紀後半の敷粗染技法を用いた大畦畔も見つかっており、条里制の施行時期を考える上でも貴重な資料となっております。

菊池川中流域は古代遺跡の中心部です(図11)。左端に、山鹿郡衙推定地の桜町遺跡、中央に、弥生時代後期以来の拠点集落である方保田東原遺跡があり、古代にも続いていると考えられます。北東には、官衙関連遺跡の御宇田遺跡群が分布しており、中村廃寺などでは鉄関連の遺物が出土しております(図12)。

主要な官道関連遺跡。定義するのは難しいんですけども、五間以上の建物を持つ、墨書土器、硯、陶磁器、鉄関連などの要素が一つでもある遺跡を丸で囲むと、官道周辺の二〜四km以内に集落跡、さらにその南側にも大規模な古代の集落が存在しております。



図10 玉名市条理図(玉名市2005第9図改変)

- 1 玉名郡家 2 玉名郡寺 3 玉名郡倉 4 正野神社 5 稲荷山古墳墳頂部(立願寺瓦出土地)
- 6 蓮花遺跡 7 磐座(金毘羅山) 8 大湊 9 置氏の最初の拠点
- 10 柳町・岡迫間日渡遺跡・玉名平野条里跡 11 上小田宮の前遺跡 12 山田松尾平遺跡
- 13 北の崎遺跡 14 稲佐津留遺跡 15 稲佐廃寺 16 城ヶ辻古墳群 17 寺田古墳群
- 18 保田地窯跡群 19 蛇ヶ谷製鉄跡 20 立願寺大塚遺跡 21 大坊古墳 22 永安寺東・西古墳
- 23 馬出古墳 24 小路古墳 25 松林寺山古墳 26 石貫ナギノ横穴群 27 石貫穴観音横穴群
- 28 三ツ川六反製鉄跡 29 広福寺裏製鉄跡
- 30 清原古墳群(江田船山・京塚・虚空蔵塚・塚坊主古墳) 31 姫塚古墳 32 前田古墳
- 33 宮の後古墳 34 真福寺東古墳 35 富尾原横穴群A 36 富尾浦谷横穴群 37 田崎横穴群

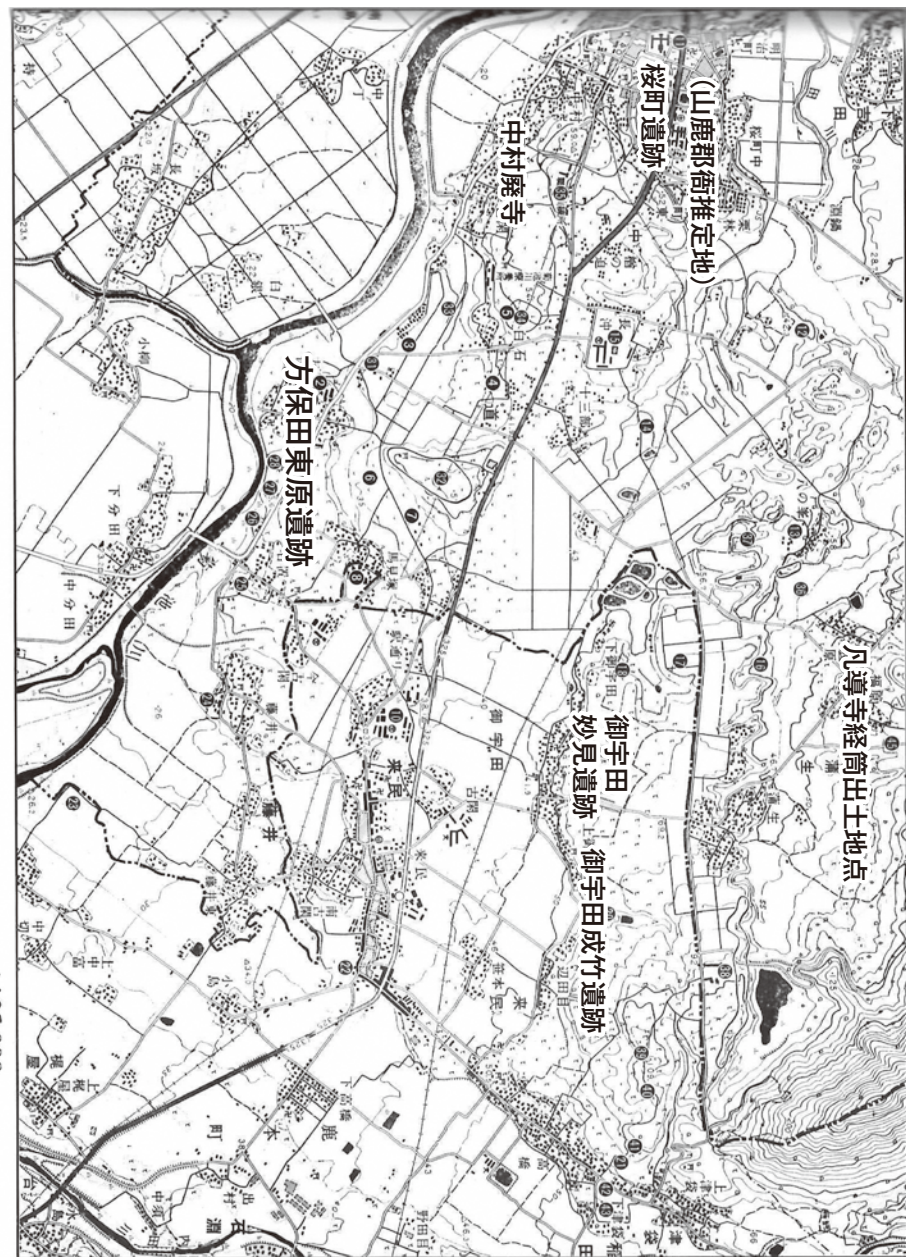


図11 方保田東原周辺古代遺跡（山鹿市）

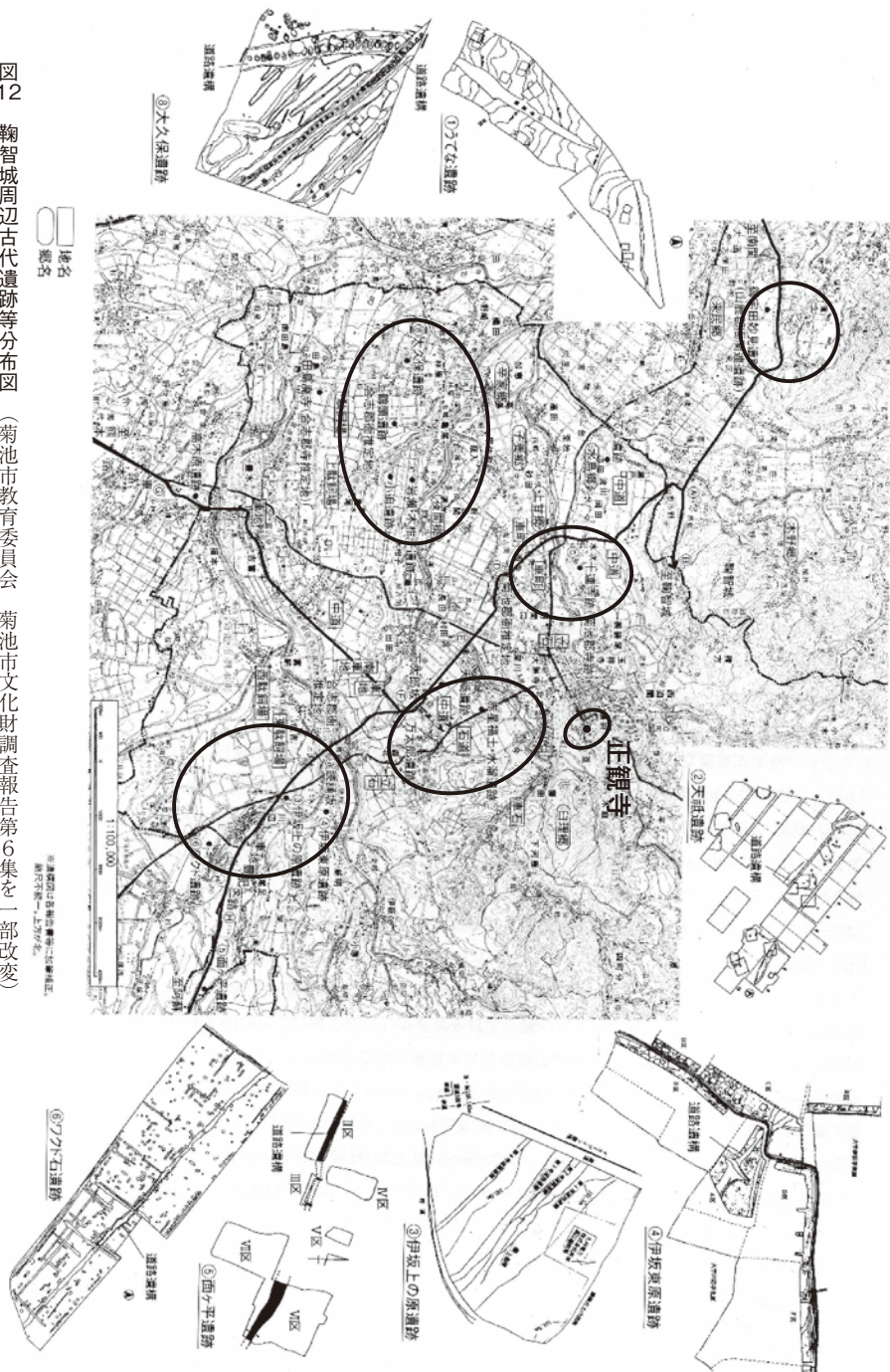


図12

鞆智城周辺古代遺跡等分布図

（鞆智市教育委員会

鞆智市文化財調査報告第6集を一部改変）

おわりに

鞠智城は肥後国府や大宰府、阿蘇、東九州への中継地点として、大宰府の出先機関として機能し、やがて菊池郡の郡衙機能も補完する機関としても機能していると考えられます。

菊池川中流域・下流域に在地勢力の中心があり、合志川から菊池川上流域左岸地域も連携して地域社会を形成していたと考えられます。

それらの背後に大和（倭）政権が整備した鞠智城が存在すると考えられます。

以上で、私の発表を終わりたいと思います。